

(国語)

読み取ったことを学び合い、深め合う学習
～一人学びからみんなの学びへ～

大阪市立荻田小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、2016 年度から国語科を研究の中心とし、「読む力」を育てることを目指して研究を進めてきた。これは、「問題の文章を読み取る力が弱い」「教科書の文章を読み取って意味をつかむのが難しい」といった児童の実態から取り組みを始めたものである。2016・2017 年度は主に説明的文章の読み取りに取り組み、読み取るだけでなく読み取ったことを活かすことができる力を培う研究を進めたが、「語彙が少ない」「一人学びができていない」「聞く力が弱い」「交流で意見を深め合うまでには至っていない」という課題が残った。また、「大阪市学力経年調査」の結果「読む」領域、「活用」分野で大阪市との差が大きい。そこで本年度は、まず、児童が意欲を持って主体的に学習に取り組むことを大きな目標とし、一人学びで自分の考えを持ち、他の人と学び合って考えを深め合うことを中心課題とした。

2. 研究の概要

「学び合い、深め合う」ために

次の 5 項目を研究の柱とし研究を進めていく。それぞれの項目において各学年で研究し、授業研究や討議会・研修会の場で交流し深めるようにする。

1. 「何のために読むのか」を意識した課題設定をする。
2. 一人学びの方法を研究する。
3. 読みを深めることができるような「交流の場」を工夫する。
4. 読み取った内容を発展・活用させる学習を設定する。
5. 読書活動を推進し、語彙を増やし、豊かな心を培う。

3. 学力向上の取り組み

「ぐんぐんプリント」

本校では、以前より 1 時限までの 15 分間を「ぐんぐんタイム」とし、今年度は金曜日の週 1 回「ぐんぐんプリント」の学習に取り組んだ。国語は簡単な読み取りや言葉の習熟、算数は復習を中心に、5 分程度でできる内容で、答え合わせも自分たちでできるように工夫している。

「マイノート」

各学年で 1 週間に 1 回程度、「自主学習ノート」として復習や自分で調べたことなどを書いて提出する取り組みを継続している。今年度は 3～6 年生は年度当初から、2 年生は 11 月から、1 年生は 3 学期から取り組みを始めた。「マイノート」は「子どもが自ら学習する内容を選んで自主的に取り組む家庭学習」ととらえ取り組んでいる。児童一人一人が自分に合った学習内容を自分で設定し、取り組むことにより、主体的に学ぼうとする習慣を家庭で身に着けることができる。中学年用、高学年用にマイノートの作り方プリントを用意し、ノートの表紙裏に貼り付けられるようにした。手本となるノートの例も紹介することで、取り組みやすくなるようにしている。ノートの見開きを 1 回分として、学校での学習

内容と直接結び付く「バッチリメニュー」と、自分の好きなことや興味のあることについて調べていく「ワクワクメニュー」をバランスよく取り組むようにしている。各学級でみんなに紹介したいノートを貼り出したり、それぞれのノートを見て回ったりしている。また、玄関わきの掲示板に貼り出し、「こんなこともできるんだ」「次はこんなこともやってみよう」など、意欲を高めることができるようにした。

「読解ワーク」

「一人学び」に取り組むうえでの課題として、「全国学力・学習状況調査」の結果から「主語と述語との関係などに注意して文を正しく書く」ことが挙げられる。そこで、国語の基礎となる「文章読解」「作文」を領域別に取り上げ、どの児童にもゆっくりていねいに学習できる課題として「読解ワーク」（喜楽研）を各学年の実態に応じて取り組んでいる。はじめは簡単な短文の読み取りから始められるので、国語や文の読み取りに苦手意識のあった児童も「これならわかる。」「全問出来た。」と達成感を感じながら取り組んでいる。今後この読み取り学習を、言葉や文章に親しむことを大切にしながら、段階を追った学習ができるように教材を工夫していく必要がある。

4. 研究活性化の取り組み

授業研究会の前には、「授業研究会に向けて」というプリントを用意し、参観のマナーやポイント、前回の指導講評のまとめ、当該学年からのメッセージを掲載した。

研究授業後の討議会では、付箋によるグループワークを取り入れた。少人数による討議となるため、活発な意見交換ができ、討議の内容を深めることができた。付箋は「研究の視点」を入れた拡大指導案に貼り付け、焦点化しやすくなるようにした。また、研究討議会後には職員室後方に掲示することで、参加できなかった人も討議内容を把握でき、その後の各自の授業改善にも意識を向けられるようにした。

5. 成果と課題

【成果】

(1) 「一人学び」の場や時間が設定されているか。

- ・意味調べや基本音読を家庭学習で行い、ワークシートに一人で書き込みができるようにした。学習時には家庭学習で考えてきたことをもとにするので、めあてに沿ってじっくり考える時間がとれた。
- ・一人学びで書き込むことにより、児童一人一人が自分の考えを持ち、自信を持って発表する姿が見られるようになった。

(2) 学び合い、深め合えるような「交流の場」が工夫されているか。

- ・ペア、グループ、全体交流の場を、発達段階や内容によって使い分け、活発な交流ができるようにした。また、国語科だけでなく他教科でも交流の場を多く取り入れたことで、色々な意見を出し合うことができるようになり、「なるほど」「あ、そうか」などの学び合い、深まり合いの言葉が多く聞かれるようになった。

【課題】

- ・45分の学習時間の中でじっくりと考える時間をどう確保するかが課題といえる。
- ・学級内の学力差が大きく、個に応じたワークシートの工夫が必要である。
- ・交流の場では、一人ずつの発表形式になるのではなく、相手の発言につなげていくような話し合いの場を増やすことができるよう、指導を進めていく。